

第2回市民交流施設利活用検討会 開催結果（概要）

1 日 時 平成30年11月19日（月）14:00～15:50

2 会 場 江別国際センター D会議室

3 参加者 藤本直樹（座長）、阿部実、内海信雄、後藤鮎美、後藤一昭、
武田正義、奈良幸則、山田裕太 計8名

4 欠席者 工藤多希子、新館忠義 計2名

5 傍聴者 2名

6 検討事項

市民交流施設の利活用方法とレイアウトについて

【参加者からの主な意見】

○市民活動センター・国際センターの利用状況について

- ・市民活動センターのNPO法人えべつ協働ねっとわーくによる占有率は、直近3ヶ月の内、最も高い10月で、A会議室が約25%、B会議室が約40%である。
- ・国際センターの利用状況は、江別国際交流推進協議会とその加盟団体が使う時間を確保していて、稼働率は30数%である。
- ・両センターとも、土日は平日と比べて、空いている。
- ・週末に少し大きめのイベントを開催する余地はある。
- ・会員以外の人でも空いていれば使えるということを、伝えきれていなかったと思う。

○利活用方法について

- ・高齢者が家にこもることなく、人々と交流できる場がよい。
- ・立場の垣根を越えて、皆が集まれる場をつくりたい。
- ・大学サテライト教室として使ってもらえるようにしたい。
- ・音楽を通しての4大学などの交流が起きるといい。
- ・ロビーや風除室に作品を飾り、ギャラリーとして使ってもらおう。
- ・ホテルができると市外からも人が来るので、観光案内を行う。
- ・江別市民に対して、外国人との接し方の教室を開く。
- ・駅前の待ち合わせスポットとなり、ふらっと立ち寄ってもらおう。
- ・シティプロモートの一部になるのではないか。ホテルに泊まった人に、江別は元気なまちだと思って自分の住むところに帰ってもらえたらいい。
- ・江別市内の民間企業に来ている研修生や一般の方に向けて、日本語教室を行う。
- ・外国の方が困ったときのサポートを行う。
- ・留学生、研究生、先生方の交流の場になればいい。
- ・大麻銀座商店街のブックストリートというイベントは、人がたくさん来る。参考

になるのではないか。

○施設・レイアウトについて

- ・建物の真ん中の通路を、駅前の通り抜けの通路のようなイメージにする。
- ・会議室は、閉鎖的ではなく、オープンになったものにする。
- ・サロンを四季の広場と一体で大きなスペースで使えたらいいと思う。国際センターの事務室と会議室②の位置を変えられないか。
- ・国際センターと市民活動センターの事務所は分けてほしい。
- ・サロンからトイレが分かるよう、誘導するサインが必要ではないか。
- ・会議室2室を、最初から完全防音としなくても、防音仕様を希望する。
- ・外国の方が来て、料理をつくることがある。給湯室に冷蔵庫1つとコンロがあるとよい。
- ・証明交付窓口で証明を取りに来る方の中には、見られたくない方もいる。国際センターの事務室と会議室②を入れ替えると、国際センターのカウンターが、証明交付のすぐ目の前になってしまう。
- ・平日はほとんど、会議室①と②の戸が閉まっていると思う。その場合、会議室②の場所に国際センターの窓口があっても、どこにあるか分かりにくいと思う。
- ・当初の案は、長方形ではないが、交流サロンから斜めに広くスペースが見える。
- ・証明交付窓口の記載スペースからすぐの場所に柱があればいいのだが。
- ・柱を1本だけ動かすことはできない。すべての柱を、図面でいう真ん中よりに配置するか、下側に配置するかしかない。
- ・当初の案が一番いいのではないか。

※レイアウトについて、いろいろアイデアが出されたが、当初案を上回るものにはならなかった。

7 次回検討内容について

今回の検討会に欠席者もいることから、次回は、今回の検討内容の確認を行う。